



ツバメはいつ、どこからやってくるの

南の国からわたってくる

日本に来るツバメは、冬の間は中国南部・フィリピン・マレー半島・ニューギニアなどに、すんでいます。春、ひなを育てるために、日本にわたってきます。

2月の末には、ツバメは鹿児島に現れます。桜が咲き始める桜前線より一足早く、しだいに北へ北へと広がっていきます。4月の終わりごろには、北海道でも見られるようになります。気象庁では、各地の観測所で、ツバメが最初に姿を見せた日を、記録しています。最近では、少しずつ早く現れるようになってきています。

ツバメの仲間

ツバメの仲間は、日本全国で見られます。各地で、ふつうに見られるのは、ツバメとコシアカツバメです。ツバメがわたってくる日が、調べられているのは、この種類です。

西日本に多いのは、コシアカツバメです。4月にやってきて、11月には去っていきます。山地や海岸などの岩へきには、ツバメより小型の、イワツバメがいます。

ショウドウツバメ

北海道の川岸のがけに、春、集団であなをほり、巣を作るのはショウドウツバメです。本州より南の地方では、夏の終わりから秋の初めに、海岸や川の岸辺に群で現れます。同じツバメの仲間ですが、上の3種類とは少しちがいます。

アマツバメ

くもりや雨の日だけ、低空飛行をするため、「雨ツバメ」とよばれました。全国各地の山地や、海岸の岩のがけにすみます。アマツバメは、ツバメの名前がついていますが、ハチドリに近い仲間です。ツバメの仲間ではありません。（監修・今泉 忠明）

